

品目：ピーマン ナス科

平成22年度版

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	目標収量：5, 500kg ～ 4, 000kg (10a) 正 品：90%以上																											
栽培体系	○：播種 ◇：鉢上げ ▲：定植 ■：収穫												○品種 ・高品質で、秀品率、玉揃い、色上がりに優れ肉厚な品種を選ぶ。 ・尻腐れや裂果、ひび割れなどの生理障害を起こしにくい品種を選ぶ。 ○栽植密度 ・うね幅 80～60cm 株間 40～35cm ベッド数 4～3(3.5間) 施肥基準 (10a) <table><tr><th>資 材 名</th><th>基肥(現物量kg)</th><th>追肥(現物量kg)</th></tr><tr><td>完 熟 堆 肥</td><td>1, 500</td><td></td></tr><tr><td>ロングショウカル140</td><td>90</td><td></td></tr><tr><td>味 好 特 号</td><td>140</td><td></td></tr><tr><td>苦 土 重 硝 燐</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>硫 酸 加 里</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>畑 の カ ル シ ウ ム</td><td>60</td><td></td></tr><tr><td>マ ル チ サ ポ ー ト 1 号</td><td>60</td><td></td></tr><tr><td>は つ ら つ く ん</td><td></td><td>120</td></tr></table>	資 材 名	基肥(現物量kg)	追肥(現物量kg)	完 熟 堆 肥	1, 500		ロングショウカル140	90		味 好 特 号	140		苦 土 重 硝 燐	30		硫 酸 加 里	30		畑 の カ ル シ ウ ム	60		マ ル チ サ ポ ー ト 1 号	60		は つ ら つ く ん		120
資 材 名	基肥(現物量kg)	追肥(現物量kg)																																						
完 熟 堆 肥	1, 500																																							
ロングショウカル140	90																																							
味 好 特 号	140																																							
苦 土 重 硝 燐	30																																							
硫 酸 加 里	30																																							
畑 の カ ル シ ウ ム	60																																							
マ ル チ サ ポ ー ト 1 号	60																																							
は つ ら つ く ん		120																																						
病害虫	← 苗立枯病 → ← う どん こ 病 → ← 灰 色 か び 病 → ← アブラムシ類・ハダニ類 → ← ア ザ ミ ウ マ → ← 青 枯 病 →																																							
栽培上のポイント	1. 排水対策 ・土畑での栽培は、排水対策が決め手となる。暗渠の他にプラソイラーを入れるなど、年間通して土壤水分過剰にならないように準備する。 ・明渠をハウスサイドにほり、降雨などによる雨水の浸入が無いようにする。 2. 育苗 ①育苗準備 ・排水、保水性の良い消毒した床土を準備する。（pH5.5～6.0） ・播種床は肥料分の少ない床土を用いる。 ・電熱温床は早めに設置し温度調整を行う。 ②播種 ・発芽適温 28～30℃ ・播種後は十分かん水し、新聞紙等で覆い、さらに軽くかん水する。発芽したら新聞紙等を取り除き、十分光線に当てる。 ③鉢上げ ・本葉1.5～2.0葉時(播種後20日位)に10.5cm(もしくは12cm)ポットに移植する。鉢土の温度は移植前から上げておき(25℃程度)活着を促す。定植前に15℃程度まで徐々に下げていく。 ・かん水は午前中に実施し、夕方ポット表面が乾いている状態にする。 3. 定植 ①定植準備 ・マルチングは定植1週間前までに実施し、地温18℃以上を確保する。マルチの種類は、4月定植は地温の確保できるグリーンマルチとし、植え傷みが無いようにする。5月下旬以降は、地温の過度な上昇を避けるため、白黒マルチを使用する。 ・誘引ひもは定植後に準備し、誘引するまでまとめておく。 ・夜温確保と降霜被害防止のため、4月末頃までポリトンネルを施し、低温障害の軽減、生育促進を図る。 ②定植 ・定植は、植え傷みが起きないよう地温が確保されてから行う。 ・定植穴にアブラムシ予防の薬剤を入れてから植え込む。 ・定植後はたっぷりかん水し、7日～10日程度は鉢土(株元)に手かん水して活着を促す。(活着が確認されたらチューブかん水に切り替える。) ③定植後の管理 ・生育適温19～21℃(日中は30℃程度まで上昇しても問題ない)。外気の低い時期は、換気により直接冷たい風が当たらないようにハウスサイドにビニールなどを施す。 ・気温が30℃を超えると、着果不良など高温による障害が発生しやすい。遮光資材をかけハウス内温度を下げる。(7月～) 4. 管理 ①摘果・整枝 ・主枝3～4本仕立てとし、3番花までは摘花(果)する。それ以降は自然着果に任せるが、5～6月は生育旺盛なため着果過多となりやすい。そのため、適度な摘果をするようにし、樹勢と着果のバランスをとるようにする。 ・果実は主枝上の節に着け、着果しなかった場合以外は側枝には着けないようにする。 ②誘引・追肥 ・定植後3～4週間で樹高が40cm位に成長したらひもを張った状態で茎の節元へ結ぶ。 ・追肥の開始時期は1番果がピンポン球大になった頃に行う。(2～3週間間隔で、N成分1.5kg/10a) ・追肥は「はつらつくん」を基本にするが、追肥のタイミングが遅れた場合「液肥2号」を用いる。 ・尻腐れ防止のため、カルシウム剤をかん水で施用する。 5. 収穫 ・開花から収穫までの日数は夏期45～50日。春・秋期は60～70日。 ・専用ナイフを使用して収穫する。主枝と果柄の間のくびれ部分に刃を入れてもぎ取る。																																							

ナス科

平成22年度版

○：播種 ◇：鉢上げ ▲：定植 ■：収穫